



<https://www.jaaso.or.jp/>

JAあそだより

令和8年8月

残暑お見舞い
申し上げます



中部トマト部会の^{さいとうはじめ}齊藤 本さん(「表紙の紹介」で本誌4ページに掲載)

■今号20ページ 主な内容

- JA阿蘇第25回通常総代会／新役員紹介
- JA阿蘇園芸連絡協議会総代会／JA出荷大会
- 営農指導強化プログラム始動／
技能実習生受入農家連絡会通常総会
- あそっ娘☆短期大学開校式／沖縄で阿蘇産米PR
- 生産各部会の生育・出荷査定会などの情報
- 「イラスト違い」正解者に抽選でプレゼント!etc.

今号も話題と情報を満載!!

Instagram



ホームページ



● JA 阿蘇農業協同組合

本所 〒869-2612 熊本県阿蘇市一の宮町宮地387-5
TEL 0967-22-6111 / FAX 0967-23-1088



JA阿蘇ブランドで販売力強化を! JA阿蘇「第25回通常総代会」開催

組合長に原山寅雄氏を再任
「所得増大」「生産拡大」「地域活性化」
3点を重点取り組み目標に



JA阿蘇は6月25日、阿蘇市のホテルサンクラウン大阿蘇で第25回通常総代会を開催しました。

役員改選では原山寅雄氏を組合長に再任しました。議事では、

第1号議案〓令和7年度事業報告及び剰余金処分

案について（報告事項）令和7年度
貸借対照表、損益計算書、注記表及
び附属明細書について

第2号議案〓令和8年度事業計画及び関連事項に
ついて

第3号議案〓定款の変更について

第4号議案〓宅地等供給事業実施規程の変更につ

いて

第5号議案〓役員の選任について

第6号議案〓役員退職慰労金の支給について

が承認されました。

令和7（2025）年度決算概要は、事業収益が113億7811万円（前年比101・5%）、経常利益は5億2494万円（同252・1%）、当期剰余金は1億2146万円（同273・2%）、出資配当は1.0%の3968万円となりました。

令和8（2026）年度事業として、JA阿蘇ブランド推進協議会を通して販売力強化に努める。「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」の3点を重点取り組み目標に据え、①持続可能な農業経営に対する生産基盤・組織基盤の確立②組合員・利用者への永続的な保障提供に向けた持続可能な経営基盤の確立③JAの総合事業性を最大限活かした金融仲介機能の発揮など、6つの基本方針を掲げ取り組みとしました。

役員改選の結果は次のとおり。（敬称略）

▽代表理事組合長〓原山寅雄（再任）

▽常務〓後藤浩幸（新任）

▽常務〓齊藤博満（新任）

▽常勤監事〓徳永隆紀（再任）

写真上〓挨拶する原山組合長

新たに選任された役員の方々

「組合員資格確認について」当JAに届け出て頂いている内容（氏名、住所、組合員たる資格の別等）に変更があった場合には、JA阿蘇各支所までご連絡ください。

就任のご挨拶



代表理事組合長
原山 寅雄

6月25日に開催されました第25回通常総代会におきましては、すべての議案においてご承認を頂き誠にありがとうございました。この度の役員改選により、18名の役員が選任され、その後の理事会で引き続きJA阿蘇代表理事組合長の重責を担わせていただくことになりました。改めて心より御礼申し上げますとともに、その責任の重さを深く受け止めております。

現在、農業を取り巻く環境は、生産資材価格の高騰や異常気象、担い手不足など、依然として厳しい状況が続いています。このような中、JA阿蘇は「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を基本に、組合員の皆さまに寄り添った事業運営に取り組みます。また、JA阿蘇ブランド推進協議会を中心に、阿蘇産農畜産物のブランド価値向上と販路拡大に取り組み、消費者から選ばれる産地づくりを進めてまいります。

「県域JA構想」については、将来にわたって農家・組合員の「営農とくらし」を守るためにも、「新たなJA合併構想」をJA阿蘇から提案し、今後もJA合併構想の灯は消さず、将来の合併に向けて一層努力いたします。

今後とも、組合員ならびに地域の皆さまの変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます、ご挨拶いたします。

JA阿蘇 新執行部 就任のご挨拶

代表理事常務
後藤 浩幸

このたびの役員改選におきまして、金融・共済担当常務に就任いたしました、南阿蘇村出身の後藤浩幸でございます。

常務という重責を担うこととなり、その責任の重さに身の引き締まる思いでございます。

現在、農業を取り巻く環境は、国際情勢の影響による肥料や燃料など生産資材価格の高騰に加え、気候変動に伴う自然災害や異常気象の頻発など、厳しさを増しています。

このような状況だからこそ、金融・共済事業を通じて組合員の皆様の「営農とくらし」を支え、安心して農業を続けられる環境づくりに努めてまいります。

また、健全な経営基盤の確立と利用者サービスの充実に取り組み、組合員・地域の皆様から信頼され、必要とされるJA阿蘇を目指して全力を尽くしてまいります。

微力ではございますが、地域農業の発展に貢献できるよう誠心誠意努めてまいりますので、今後ともご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

代表理事常務
齊藤 博満

今回の役員改選により、経済担当常務に就任いたしました、阿蘇市一の宮町出身の齊藤博満でございます。

常務という責務の重大さを痛感し、身の引き締まる思いでございます。

経済・農業情勢は依然厳しい状況で、管内の農業従事者が高齢化等で減少傾向にある中、JA職員として在籍した42年間の経験を活かし、農業所得の向上及び安定化、地域農業の活性化、新規就農・親元就農等の拡大、組合員の多様な要望に対応できる事業展開の活性化と当組合の財政基盤の強化・健全化に努力したいと考えております。

また、新規就農・親元就農の支援や組合員ニーズに応じた事業の充実を図るとともに、阿蘇産農畜産物の魅力を広く発信し、「阿蘇ブランド」のさらなる価値向上と販路拡大にも努めてまいります。

組合員や地域の皆様の声を大切にし、信頼されるJAづくりと持続可能な地域農業の実現に向け、努めてまいります。今後とも、一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます、就任のご挨拶いたします。

常勤監事
徳永 隆紀

今回の役員改選において、常勤監事に再任いただきました徳永隆紀でございます。引き続き重責を担わせていただくことに深く感謝申し上げますとともに、その責任の重さを改めて認識し、監事としての職務を誠実かつ適正に果たしてまいります。

現在、国際情勢の不安定化や物価高騰などの影響により、農業資材価格の上昇が続く、組合員の皆様の営農や生活を取り巻く環境は依然として厳しい状況にあります。

このような時代だからこそ、協同組合の原点である「相互扶助」の精神を大切にし、組合員の皆様に信頼されるJA運営が一層求められております。

監事として独立した立場を堅持し、公正不偏な姿勢のもと、法令や定款に基づいた適正な監査を通じて、組合経営の健全性と透明性の確保に努めてまいります。

今後とも、組合員並びに地域の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます、ご挨拶いたします。



JA阿蘇新任非常勤役員紹介「よろしくお願いいたします」



村上 一秀
(阿蘇町)



日田 勝也
(阿蘇町)



後藤 久徳
(一の宮)



中野 経剛
(阿蘇町)



野田 英俊
(阿蘇南A)

理
事

(区域)



矢野 峰子
(女性部)



池部 奨
(青壮年部)



加藤 宏文
(小国郷)



田上 純一
(阿蘇南B)



佐藤 剛
(阿蘇南B)



山下 義博
(阿蘇南A)



古庄 法彦
(一の宮)



今永 公昭
(小国郷)



安藤 吉孝
(阿蘇南B)

監
事

(区域)

さいとう はじめ
表紙の紹介「**斉藤 本さん**」

9月4日・11日に放送予定のKAB(熊本朝日放送)「DO YOU のうぎょう? クエスチョン」で、JA阿蘇の夏秋トマトに関する取り組みが放送されます。

4日は、中部トマト部会の斉藤さんが阿蘇の寒暖差を生かした栽培や土づくり、高品質なトマト生産への思いを紹介します。11日は、中部野菜選果場での選果や品質確認、箱詰めなどの出荷工程が放送予定で、生産者から消費者へ新鮮なトマトを届ける取り組みが紹介されます。

ぜひご覧ください!(右写真=撮影風景の一コマ)





更なる「販売拡大と農家所得向上」めざす
JA阿蘇園芸連絡協議会総代会



J A阿蘇園芸連絡協議会は6月23日、代議員やJ A関係者が出席し「令和8年度総会及びJ A阿蘇（野菜・果菜・花卉果樹）出荷大会」を阿蘇市で開催。令和7年度事業報告や同8年度事業計画など3議案を承認。本年度の活動方針を確認するとともに、園芸振興に向けた決意を新たにしました。

7年度は安全・安心な農産物の安定供給を基本に、生産技術向上や品質確保、販売促進活動を展開。研修会や消費宣伝活動などを通じて市場との結び付きを強め、阿蘇産園芸品のブランド力向上と販路拡大に取り組みしました。

8年度は熊本市で野菜の日特売会や福岡大同青果でのベジフル感謝祭、消費地研修などを実施し、市場ニーズに

販売目標金額 68 億円必達を誓う！
管内全園芸品目を対象に「JA阿蘇出荷大会」



J A阿蘇は6月23日、J A阿蘇園芸連絡協議会総会に引き続き令和8年度J A阿蘇出荷大会を開き、生産

対応した販売戦略強化や栽培技術向上を図り、阿蘇産園芸品の更なる販売拡大と農家所得の向上を目指します。
原山寅雄組合長は挨拶で「農業を取り巻く環境は依然として厳しい状況が続いているが、生産者・関係機関・JAが一丸となって課題を乗り越え、消費者に信頼される高品質な園芸品の生産と安定供給に取り組みしたい。阿蘇ブランドの価値をさらに高め、農家所得の向上と地域農業の発展につなげていきたい」と決意を述べました。（写真上：挨拶する原山組合長）

者や市場関係者・行政・JA役職員ら約50人が出席しました。管内全ての園芸品目を対象に開く「JA阿蘇出荷大会」は今回が2回目です。

大会では令和8年度の販売目標金額を68億円と掲げ、目標達成に向けて生産・販売体制を強化する方針を確認。目標額の内訳は野菜54億5000万円、果菜8億5000万円、花卉果樹5億円、産地一丸となつて有利販売と農家所得の向上を目指します。

同7年度の販売実績は68億2580万円、主力のトマトやアスパラガス、イチゴなどが販売を牽引しました。

新年度も高温や異常気象の影響、生産資材や物流費の高騰など、生産現場を取り巻く環境は依然として厳しい状況が続いていますが、こうした情勢を踏まえ生産量の確保と品質向上に取り組む計画です。

今年度の重点実施事項として①安全・安心な農産物の生産拡大と農家所得の安定化②販売力強化による安定供給体制の構築の2項目を掲げ、生産履歴記帳の徹底や消費地での販売促進活動、ホームページや各種メディアを活用した産地情報の発信を進め、阿蘇産農産物のブランド力向上につなげます。

また、JA熊本経済連青果物コントリールセンターの機能を活用した輸

出に向けた試験販売や、阿蘇世界農業遺産のブランド資材を活用した「阿蘇フェア」の開催など、販路拡大に向けた取り組みも積極的に展開します。
消費地情勢報告では、市場との連携を一層強化しながら安定供給体制を構築する方針を確認しました。

市場関係者からは「品質の高い阿蘇産農産物への期待は大きい。計画的な出荷と安定供給で目標達成を目指してほしい」と期待が寄せられました。

原山寅雄組合長は挨拶で「燃料や資材価格の高騰が続く、農家経営は厳しい状況にある。しかし、組合員とJAが一丸となり、JA阿蘇ブランド推進協議会とも連携しながら、『阿蘇産』ブランドの価値をさらに高めていく。国内外への販路拡大を進め、生産者の所得向上と販売目標68億円の達成につなげたい」と力強く述べました。

大会の最後には参加者全員で「頑張ろう三唱」を行い、販売目標68億円の必達を誓い、生産者と市場・JAが一体となり、高品質な阿蘇産農産物を全国へ届けることで、産地の更なる発展と農家所得の向上につなげていく決意を新たにしました。

（写真上：目標達成に向けた「頑張ろう三唱」の様子）



肥後銀行「阿蘇世界農業遺産基金」へ寄付 草原保全や畜産振興を支援



肥後銀行は6月23日、阿蘇地域世界農業遺産推進協議会の原山寅雄会長（JA阿蘇組合長）に寄付金を贈呈しました。同行は2014年の基金創設以来、継続して寄付を行っており、今回で通算10回目となります。

贈られた寄付金は、阿蘇地域の活性化や農畜産物などの付加価値向上に向けた取り組みに活用されます。

贈呈式では、肥後銀行の上村慎吾取締役常務執行役員が原山会長に目録を贈呈しました。原山会長は「肥後銀行には10年にわたり温かい支援をいただいている。阿蘇世界農業遺産のPRや阿蘇の農畜産物発展に活用していきたい」とお礼の言葉を述べました。

（写真＝贈呈式の様子）

営農指導強化プログラムが始動 JA阿蘇が営農指導改革へ 「農業者一人ひとりの課題や目標に応じた支援」必要



JA阿蘇は5月29日、営農・経済事業の変革を目指す「営農指導強化プログラム」のキックオフ会議を開きました。同会議はJAグループ熊本と（株）ACWパートナーズ（ACWP）が連携して進める取り組みで、県内JAの中でも先行して導入。営農指導員の育成や農業者支援の強化を通じ、地域農業の持続と農家所得の向上を図ります。

会議には、JA阿蘇役職員やJA熊本中央会の関係者ら約20人が出席。プログラム導入の背景や目的、今後のスケジュールなどを共有し、営農指導の変革に向けた活動を本格的にスタートさせました。

原山組合長は「農業を取り巻く環境が厳しさを増す中、営農指導員の役割はますます重要になっている。農業者に寄り添いながら課題解決を支え、地域農業の発展につなげていきたい」と挨拶しました。会議では、農業を取り巻く環境が大きく変化化する中、農業者の所得向上や経営安定を支えるためには、従来型の指導に加え、経営面まで踏み込んだ支援が必要であるとの意見が述べられ、特に、トマト、イチゴ、アスパラガスなど園芸主要品目において、ベテラン指導員が持つ栽培技術や営農支援のノウハウを「型」として整理・共有し、若手指導員の育成につなげていく方針が示されました。

また、農業者一人ひとりの課題や目標に応じた支援を行うことで、農家の自立や成長を後押しし、結果としてJAの販売取扱高増加にもつなげ、地区ごとの特色を生かした営農支援を進めながら、販売・購買・信用事業が連携したJA一体の支援体制づくりも目指すことなどが提案されました。

今後は県下JAとの合同研修や現地見学も交えながら、営農指導員向けの基礎トレーニングを実施。農業者との対話力や経営支援力の向上を図り、地域農業を支える人材育成を進めていく方針です。（写真上＝キックオフ会議の様子）

水稻高温対策講習会を開催 各地の高温対策取り組み事例も紹介



JA阿蘇は7月上旬、高森と南阿蘇地区で水稻の高温対策講習会を開きました。同講習会は近年の猛暑による品質・収量低下への対応が目的です。当日は阿蘇地域振興局とJA熊本経済連から講師を招き、生産者やメーカー関係者など約150人が参加しました。

講習会では田植え後から実践できる高温対策として、水管理や穂肥の適正施用など基本技術の重要性が説明され、高温障害の軽減が期待される各種資材の活用方法や、全国各地で進められている高温対策の取り組み事例なども紹介されました。

農産課の廣瀬真吾職員は「地域の生産性向上のため、これからも関係機関と連携し、基礎管理の徹底を促して、高温対策を取り入れた栽培方法が浸透するよう指導したい」と話していました。

（写真＝講習会の様子）



沖縄で「阿蘇産米」をPR！
試食販売と抽選会で消費拡大

J A阿蘇は6月6日から8日までの3日間、沖縄県内で熊本県産米の販路拡大と需要確保を目的に販促活動を実施



沖縄で実施された『たいぎやうまか！くまもと米キャンペーン2026』の様子

施しました。

県外の消費者へ県産米の魅力を直接伝えることで、熊本米の認知度向上と消費拡大を図りました。

今回の販促活動は、「たいぎやうまか！くまもと米キャンペーン2026」の一環として行われたもので、同JAからも農産物の販売担当者らが参加。6日と7日はサンエー縁塚シティで試食販売会とガラポン抽選会を開催し、来店客へ熊本県産米のPRをしました。

対象商品を購入した来店客を対象に実施したガラポン抽選会には約200人が参加。「くまさんの輝き」5kgや「阿蘇産こしひかり」3kg、サンエー商品券などが当たる企画を実施し、会場は終日にぎわいを見せていました。

会場では特別栽培米「阿蘇産こしひかり」や無洗米「くまさんの輝き」を販売。実際に試食してもらい食味や品質の高さを紹介しました。2日間の販売実績は「阿蘇産こしひかり」5kg152袋、同3kg57袋、無洗米「くまさんの輝き」5kg234袋と2日間合計で443袋となりました。

来店客からは「甘みがあっておいしい」「また購入したい」といった声が聞かれ、熊本県産米への関心の高さがうかがえました。会場内には専用POPや販促資材を設置し、熊本県産米の特徴や生産者のこだわりを紹介。米袋

「阿蘇の夏秋野菜」をPR
福岡大同青果「ベジフル感謝祭」

J A阿蘇は6月20日、福岡大同青果の「ベジフル感謝祭」に参加し、阿蘇産夏秋野菜のPR活動を行いました。

当日は会場に訪れた多くの来場者に直接阿蘇産農産物の魅力を伝え、認知度向上と消費拡大を図ることができました。トマトやアスパラガス、生シイタケなどを販売した他、それらを使っ

へのキャンペーンシール貼付や店頭告知に加え、新聞やWEBを活用した広報活動も展開され、幅広い層への情報発信が行われました。

8日には沖縄県内の量販店や取引先を訪問し、販売状況の確認や意見交換を実施。現地の消費動向やニーズを把握するとともに、今後の販売拡大に向けた連携強化を図りました。

営農部農産課の担当職員は「沖縄の消費者の皆さまに、熊本県産米のおいしさや品質の高さを直接お伝えする貴重な機会となった。販売実績も好調で試食された方から高い評価をいただき、大きな手応えを感じている。今後も阿蘇地域の生産者が丹精込めて作った農産物の魅力を県内外へ発信し、販売拡大につなげていきたい」と抱負を話していました。



「肉みそ野菜ディップ」(写真右)の試食を楽しむ来場者

た「肉みそ野菜ディップ」の試食を提供。会場では試食をきっかけに商品を手取る来場者の姿も多く見られ、販売は好調で、阿蘇産野菜のおいしさや品質の高さを実感してもらった機会となりました。

担当者は「多くの来場者に阿蘇の夏秋野菜を知っていただき、試食を通じてそのおいしさを実感してもらえた。今後も消費者との交流を大切にしながら、阿蘇産農産物の魅力を積極的に発信し、販路拡大とブランド力向上につなげたい」と話していました。



「受入農家として求められる対応を！」 外国人研修生受入農家の通常総会開く



J A阿蘇は6月2日、サンクラウン大阿蘇で「令和7年度外国人研修生受入農家連絡会通常総会」を開きました。

総会にはJ A阿蘇管内で外国人技能実習生を受け入れている農家や関係機関の担当者らが集まり、令和7年度事業報告や令和8年度事業計画などを承認しました。

今村康太会長は開会にあたり「J A阿蘇ブランド推進協議会が発足したとの記事を見た。今後どのような展開になるのか楽しみだ。生産者としてもこの取り組みを支えられるよう、技能実習生とともに品質の高い農作物の生産に努めていきたい」と抱負を述べました。

原山寅雄組合長は「農業を取り巻く環境の先行きは不透明だが、それは市

場や他業界も同じ状況。市場との連携をしっかりと図りながら、この難局を皆で乗り越えていきたい」と呼びかけました。

当日は公益財団法人国際人材協力機構（JITCO）の河野政広氏を講師に迎え、「育成就労制度の内容及び受入機関の費用関係」をテーマとした研修会も実施されました。

参加者は受入農家として求められる対応などについて理解を深め、総会と研修会を通じ、外国人技能実習生の適正な受入れと農業経営の発展に向けて意識を共有しました。（写真上②いさつをする原山寅雄組合長

「農業師匠選定会議」開催 関係機関が連携し新規就農者を支援



J A阿蘇は5月28日、一の宮中央支所で農業師匠選定会議を開き、阿蘇地域の新規就農者育成に向けた支援体制

の強化を図りました。

同会議は就農を目指す研修生を受け入れ、技術や経営のノウハウを指導する「農業師匠」を選定するために実施されています。

会議にはJ A阿蘇新規就農者担当職員や阿蘇地域振興局、阿蘇市などの関係機関担当者が出席しました。会議後、認定研修機関に申請をしている研修生や受入農家を訪問し、巡回指導を行いました。

今年から、熊本県就農支援機関協議会の阿蘇地域マネージャーや日本政策金融公庫も加わり、より幅広い支援体制の構築を確認しました。

巡回指導では、研修生の実地研修の状況や就農に向けた準備の進捗を確認するとともに、受入農家から現場での課題や指導内容について聞き取りを実施。研修生一人ひとりの状況に応じた支援策や今後のフォロー体制について意見を交わしました。

J A阿蘇は関係機関との連携を一層強化し、技術習得から就農後の経営定着まで切れ目のない支援を行うことで、地域農業を担う新規就農者の確保・育成につなげていく方針で、地域ぐるみで若い担い手を支える体制づくりを進め、持続可能な農業の実現を目指しています。（写真上②サポートチームから聞き取りを受ける農業師匠と研修生

『時間外労働の削減・労災ゼロ』を 職員らの安全を願う祈願祭



J A阿蘇は7月1日、阿蘇神社で熊本県労働基準協会阿蘇支部が開く安全祈願祭へ参加しました。この祈願祭は「全国安全週間」として7月1日から7日まで全国的に展開され、週間行事の一環として催されており、阿蘇管内の各企業などから代表者が集いました。原山寅雄組合長は「J A阿蘇で働く職員らが、熱中症対策等を施し、安心して働ける環境づくりが重要。怪我や病気に十分注意して業務に取り組んで欲しい」と祈願しました。

J A阿蘇では労働災害を少しでも減らし、職員一人ひとりが安全に働くことができる職場環境を築くことが重要であることから『時間外労働の削減・労災ゼロ』をスローガンとして掲げています。（写真②祈願祭の様子



「交流と学びの一年がスタート」
あそっ娘☆短期大学開校式



6月29日、JA阿蘇一の宮中央支所で「あそっ娘☆短期大学」の開校式が行われました。同大学は地域の女性農業者同士の交流や学びの場として毎年開かれており、今年は13期生を迎えました。当日は入校生17人とJA関係者24人が出席し、新たな一年の活動がスタートしました。

入校生を代表して猪島そよ子さんが「仲間との交流を深めながら、多くのことを学び、充実した一年にしたいです」とあいさつし、今後の活動への意気込みを述べました。

開校式後には、JA熊本厚生連健康



写真右上＝あそっ娘☆短期大学13期生の皆さん
写真上＝椅子ヨガをするあそっ娘の皆さん

管理センターの栄養管理士中尾佳子さんを講師に迎え、健康教室を開催。「食べて元気に！生活習慣病とフレイル予防」をテーマに、健康な体づくりには欠かせない食生活のポイントや口腔ケアの重要性について学びました。

授業では体操やヨガを実際に体験。参加者は体を動かしながら健康づくりへの理解を深めました。あそっ娘からは「普段の生活でも取り入れやすい内容でとても参考になった」「健康について改めて考える良い機会になった」などの声が聞かれました。

年間活動は開校式を含め全4回を予定しており、今後は視察研修や料理教室などを通して、参加者同士の交流を深めながら学びを広げていきます。

「切干し大根」「切り干し人参」
JA阿蘇女性部ドライフード作り



JA阿蘇女性部は管内の社会福祉協議会やこども食堂などに使ってもらおうと、野菜を保存が効く状態にしたドライフード（切り干しダイコンと切り干しニンジン）作りをしました。

このドライフード作りには、子どもたちや若い世代の保護者の皆さんに、伝統食やその食材を使った新しい食べ方を提案していく目的もあります。

役員・事務局でダイコン20kgとニンジン10kgを千突きで切りました。そして、JA阿蘇本市の調理室に設置してある熊本県女性組織協議会所有の野菜乾燥機に消毒済みトレーに切った野菜を広げ、約20時間かけて乾燥させました。

ドライフードに出来上がったダイコンやニンジン約50gずつ袋詰めしました。作業終了後はJA阿蘇本市の生活指導員の方と意見交換を行いました。

5月に行われた営農部の「親子で田植え体験」の際には、昼食時に女性部特製カレーと副菜として、切り干しダイコンと切り干しニンジンのツナマヨサラダや切り干しニンジンしりを振る舞いました。参加した子どもたちにも合う味付けで好評でした。保護者からは「とっても美味しいので、今度家でもやってみます！」との声も聞かれました。

JA阿蘇女性部は「これからも食農教育を続けていきたい」と抱負を語っていました。



写真右上＝阿蘇市社会福祉協議会及び高森町のこども食堂、南阿蘇村のこども食堂へドライフードが贈られた際に撮影／写真右＝ドライフード作りの様子



女性部「蘇陽・高森・南阿蘇」3支部 各地区で花の寄せ植え教室開く



J A阿蘇女性部の蘇陽・高森・南阿蘇の3支部は6月中旬、各地区で花の寄せ植え教室を開きました。

花の寄せ植え教室は、女性部年間活動の一環として毎年実施しているもので、部員同士の交流を深め季節の花を楽しむ絶好の機会となりました。

青壮年部が地元小学生へ ミニトマト苗植えを指導

J A阿蘇青壮年部一の宮支部は5月29日、一の宮小学校2年生生約60人に食農教育の一環としてミニトマト苗の定植指導をしました。

同校では毎年ミニトマト栽培を通じて、食の大切さを学ぶ活動に取り組んで、食の大切さを学ぶ活動に取り組んで

教室には生活指導員をはじめ、3支部の女性部員合わせて約100人が参加。生活指導員の指導を受けながら、花トウガラシや千日紅など色鮮やかな一年草を中心に、鉢いっぱい花を植え込み、それぞれが思い思いの寄せ植えを完成させました。

この寄せ植え教室は、毎年6月ごろに開催。完成した鉢は各家庭へ持ち帰り、11月ごろまで季節の彩りとして楽しむことができます。

参加した女性部員は「毎年楽しみにしている活動の一つ。さまざまな種類の花を自宅で長く楽しめるのがうれしい。部員同士で会話をしながら作業できることも魅力」と笑顔で話していました。担当の瀬井真美職員は「この活動を通して、部員同士の交流を深めるとともに新規部員の確保を目指していきたい」と話していました。(写真＝花の寄せ植えをした女性部の皆さん)

であり、青壮年部一の宮支部が継続して協力しています。児童たちは部員のアドバイスを受けながら、プランターに培養土と肥料を入れ、苗を一本ずつ丁寧に植え付けました。作業の最後にはたつぷりと水を与え「早く赤い実ができてほしい」「毎日観察します」と笑顔で話し、生長への期待を膨らませていました。

田端伸吉支部長は「栽培の大変さを学ぶことで、食べ物大切さを身近に感じてもらいたい。そして、これからの日本の食文化を担う存在になってほしい」と期待を寄せていました。

一の宮支部では、食農教育を通じて地域との交流を深める取り組みとして今後も継続していく方針です。(写真＝児童らと植え付けをする田端支部長)



永年勤続表彰式を行う

J A阿蘇は6月25日、ホテルサンクラウン大阿蘇で勤続年数が20年、30年となる職員に対し永年勤続者表彰を行いました。

30年で7名、20年で13名の計20名が表彰を受け、原山組合長より賞状が贈呈されました。

永年勤続職員に対し、原山組合長は「長年にわたる努力に敬意を表したいと思います。これからは農協事業に対し精進、努力されますよう心より期待しています」と祝辞を述べました。



生産各部会の生育・出荷・査定会などの情報①

“地域農業を支える若手の力”
田中さん5月下旬から大麦収穫



JA阿蘇管内では5月下旬に大麦「はるしずく」の収穫が行われました。阿蘇市大麦生産部会は総面積約265haに作付けし、今作は総出荷量500t、販売金額1500万円を目標に掲げています。

「はるしずく」は阿蘇地域の冷涼な気候に適した品種で、品質の高さから実需者の高い評価を得ています。収穫された大麦は管内のカントリーエレベーターへ搬入され、5日間で生重量約600tが集荷されました。

近年は麦類の需要も高まっており、

安定供給に向けた産地づくりが進められています。部会では高品質生産に向けて適期管理を徹底。特に防除対策に力を入れ、病害虫の発生を防ぐだけでなく、品質低下防止や食の安全・安心の確保にも努めています。

生産者とJAが連携しながら栽培管理を行った結果、今作は生育期間中の天候にも恵まれ、収量は平年並み、品質は良好な仕上がりとなりました。

同部会の田中晨星さんは、家畜人工授精師として畜産農家を支える仕事にも従事しながら、はるしずく約2ha、主食米8ha、発酵粗飼料(WCS)1.2haを栽培。耕種と畜産の両面から阿蘇農業を支える若手農業者の一人です。

田中さんは「大麦は春先から順調に生育し、雨による大きな被害もなかった。品質も良く、例年並みの手応えを感じている」と話し、コンバインによる収穫作業は順調に進み、黄金色に実った麦が次々と刈り取られました。

JA阿蘇の担当職員は「阿蘇の豊かな自然環境で育った大麦が安定して供給できるよう、これからも生産者と一体となって品質向上に取り組んでいきたい」と抱負を語り、今後も栽培技術の向上や適切な防除管理を進めながら、実需者の期待に応える産地づくりを進める方針です。(写真＝大麦「はるしずく」を刈り取る田中さん)

「アリウム」出荷本格化へ
選別講習会で品質統一を行う



JA阿蘇は5月26日、アリウムの出荷本格化を前に県や経済連・市場関係者を招き、選別講習会と目慣らし会を開き、出荷規格や品質基準を確認し生産者間の意識統一を図りました。

アリウムは前年の10～11月ごろに定植し、ハウスと露地の両方で栽培されています。寒冷紗や電照を活用した作型分散にも取り組み、安定出荷体制を整えています。現在、アリウム生産者は7名で栽培面積は約20aと増加しており、産地としての拡大が進んでいます。

JA阿蘇では品質の高位平準化を目指し、1月にはJA熊本市で圃場視察を実施するなど、栽培技術の向上に取り組んできました。阿蘇地域は標高が高く、他産地と出荷時期のピークが重

ならないことから市場評価も高くなっています。出荷は5月中旬から6月下旬までで、関東・関西・九州を中心に出荷され、今季の出荷量は約10万本と見込まれています。

生産者の工藤勝大さんは「今年も害虫被害はなく、曲がり具合、品質ともに良好でした。さらに消費者に喜ばれるよう、長期間品質の安定した切り花を出荷したい」と抱負を話していました。(写真＝選別講習会の様子、写真中央で作業をしているのが工藤勝大さん)

目標達成へ向けて意思統一
中部ミニトマト部会「出荷査定会」

JA阿蘇中部ミニトマト部会は5月29日、本格的な出荷シーズンを前に阿蘇市で出荷査定会を開き、部会員や行政・JA役職員らが出席しました。

査定会では、出荷規格の確認や市場情勢の共有、出荷計画の検討を行い、目標達成へ向けて意思統一を図りました。また、品質や選別基準を再確認し産地として統一した出荷体制の徹底を申し合わせました。

当日は市場担当者から全国の出荷状況や消費動向について報告があり、販売環境を踏まえた今後の対応について意見が交わされました。

白石忠幸部会長は挨拶で「異常気象

※次ページに続く

生産各部会の生育・出荷・査定会などの情報②

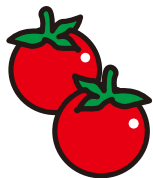
※前ページより続く



中部ミニトマト部会出荷査定会での市場情勢報告の様子

や生産資材価格の高騰、担い手不足など生産現場を取り巻く環境は依然として厳しい。しかし、このような時だからこそ部会員が丸となり、品質の高いミニトマトを安定供給していくことが重要だ。消費者や市場から信頼される産地づくりに努めたい」と述べました。

販売担当の石田澄恵職員は「厳しい生産環境が続く中でも、市場との情報交換を密に行いながら有利販売につなげ、生産者所得の向上を目指したい」と話していました。



中部ミニトマト部会
販売額2億円を目標に掲げる



JA阿蘇中部ミニトマト部会では、2026年産夏秋ミニトマトの出荷が本格化しています。(7月下旬取材時)

26年産は生産戸数24戸、栽培面積4・58haで栽培し、販売計画数量240t(前年比131%)、販売計画金額2億円(同131%)を目標に掲げています。生産拡大を進める中、本年度は他品目からの転換による新規部会員2人が加わり、産地のさらなる発展を目指しています。

栽培品種はTMM-180が全体の46%を占めるほか、サンチェリーピュア13%、キャロルスター11%、みわた9%、エコスイート8%など多様な品種を導入。市場ニーズに応じた品種構成とすることで、品質向上と有利販売

につなげています。

26年産は定植後、最低気温が平年を下回る日が続き、日照不足も重なったことで、生育は例年よりやや遅れ気味となりましたが、5月以降は日照時間が確保され、樹勢や着果は安定。

梅雨期には再び日照不足の影響で一部果房に着果のばらつきが見られたものの、大きな影響はなく出荷は順調に推移しています。現在開花している果房も充実しており、今後の収量増加が期待されています。販売担当者は「生産者が栽培管理を徹底していることで、高品質なミニトマトの出荷が続いている。阿蘇産ミニトマトの魅力が市場へしっかりと伝え、有利販売につなげたい」と話していました。

(写真上＝ミニトマト選果の様子)

販売高1億9000万円目指す
白水ミニトマト部会出荷査定会

JA阿蘇白水ミニトマト部会は6月12日、生産者や市場関係者ら約40人が出席し、令和8年度出荷査定会を南部野菜センターで開き、本格的な出荷の前に集荷場への持込要領などについて協議しました。

査定会では下田剣太郎部会長が「昨年からクレーム対策の一環で収穫の着色基準の見直しをしているが、市場評

価も良くクレームがかなり減ったので今年も取り組みを継続していく。中東情勢の問題もあるが、目標販売金額の達成に向けて頑張っていきたい」と挨拶しました。今年産は、作付面積4.2ha(前年比102%)、栽培戸数19戸(前年同)で、6月から11月まで出荷数量193t、販売高1億9000万円を計画しています。



写真＝挨拶する下田剣太郎部会長

生産各部会の生育・出荷・査定会などの情報③

白水ミニトマト部会目慣らし会
出荷最盛期を前に着色基準統一



J A阿蘇白水ミニトマト部会は7月10日、出荷最盛期を前に着色基準を統一するための目慣らし会を開きました。当日は部会員約10人が参加。市場からの高い評価を維持するため、各品種の適切な収穫時期を確認しました。

同部会では夏場の高温による日持ち対策として、昨年からの出荷時の着色基準を従来の「完着」から「7分着色」へ変更し、市場や量販店からも好評を得ています。目慣らし会では市場や量販店の担当者と連携し、各品種について着色の進み方を比較・記録。品種ごとの特性を踏まえ、最適な収穫・出荷のタイミングを確認しました。

統一した基準の出荷で、品質のばら

出荷規格や品質基準を再確認 中部キュウリ部会出荷査定会



J A阿蘇中部キュウリ部会は6月2日、阿蘇市内で出荷査定会を開き生産者や市場関係者・J A職員らが出席しました。査定会では、出荷規格や品質

つきを抑え、消費者へ安定した商品をお届けることを目指しています。当日参加できなかった生産者に対しても確認内容を文書で周知し、部会全体で着色基準の統一を図っています。

担当の林尚哉職員は「今回の取り組みは昨年から始めている。着色の統一が難しい時期もあったので、シーズン中の目慣らし会を通し着色を揃えていきたい。今後とも市場と仲卸業者の評価を保ち、良質なミニトマトを消費者に届けたい」と話していました。（写真Ⅱ着色基準を確認する目慣らし会の様子）

基準を再確認するとともに、令和8年度の販売計画について意思統一を図りました。出荷は6月中旬から九州管内を中心に始まり、7月上旬に最盛期を迎えました。

査定会では西村光介部会長が「不安定な世界情勢に伴う生産資材や燃料価格の高騰に加え、近年続く夏場の高温をはじめとする異常気象が夏秋産地にとって極めて深刻な課題になっている。厳しい栽培・経営環境の中ではあるが、産地が一丸となってさらなる品質向上を徹底し、消費者へ安全・安心なキュウリを届けたい」と力強く訴えました。

今年から販売担当となった西村有生

職員は「目標達成に向けて市場との緊密な情報交換を徹底し、産地の利益を守る有利販売に繋がっていききたい」と今後の意気込みを語っていました。（写真Ⅱ出荷査定会で挨拶する西村部会長）



遮光資材で高品質維持 中部キュウリ部会の出荷始まる

J A阿蘇中部キュウリ部会は7月上旬、令和8年産夏秋キュウリの出荷最盛期（取材時）を迎えました。

今年産は春先から生育が順調に推移し高温対策の効果もあって品質は良好

です。生産者は市場ニーズに応える高品質なキュウリの安定出荷に努めています。同部会では7戸の生産者が約1.2haで「ニーナZ」「瑞帆」「スック」を栽培。令和8年産の販売計画は販売数量135t（前年比96%）、販売金額4500万円（同102%）を目標に掲げています。

夏場の猛暑を見据え、部会全戸で遮光資材を導入。ハウス内の温度上昇を抑えることで株への負担を軽減し、草勢の維持と果実品質の向上を図っています。例年に比べて株の萎れや果実の日焼け（ヤケ）の発生が少なく、生育は順調に推移しています。

担当指導員は「遮光資材の導入など高温対策の効果が見れ、品質の良いキュウリが順調に出荷できている。今後とも生産者と連携しながら安定出荷に努め、市場や消費者の期待にこたえていきたい」と話していました。



写真Ⅱキュウリ選果の様子。阿蘇地域のキュウリは豊かな水と冷涼な気候に育まれ、瑞々しさとシャキッとした食感が特徴。

生産各部会の生育・出荷・査定会などの情報④

販売額20億4000万円目指す
中部トマト部会出荷査定会



J A阿蘇中部トマト部会は6月4日、阿蘇市内で出荷査定会を開き、生産者や市場関係者・行政・J A職員など約170人が出席しました。

査定会では令和8年度の出荷計画や販売方針を確認。目標達成に向けて意思統一を図りました。

同部会では部会員152人が計39・04haでトマトを栽培。出荷数量4800t、販売金額20億4000万円（前年比104%）を目標に掲げ、品質向上と安定出荷による有利販売の実現を目指しています。

査定会では斉藤孝幸部会長が「市場

の要望にしっかりと応えられるよう、部会員一丸となって努力を重ねたい」と挨拶。生産技術の向上や品質管理の徹底を呼び掛けました。

販売担当者の倉岡拓郎職員は今後の販売戦略について「指導と販売が協力し、生産現場の状況を詳細に把握し、市場関係者との緊密な情報交換を通じて『有利販売』を確実に実現していきたい」と決意を語っていました。

出席者は出荷規格や品質基準を再確認し、産地の評価向上に向けて意識を高めました。阿蘇地域の夏秋トマトは県内有数の産地として知られており、部会では今年度も高品質なトマトの安定供給を通じて、産地のさらなる発展を目指していきます。（写真上＝挨拶をする斉藤部会長）

夏秋トマト出荷最盛期迎える
新規就農者5人を迎え産地発展へ

J A阿蘇中部トマト部会は、令和8年産夏秋トマトの出荷最盛期（取材時）を迎えました。主力品種は「りんか409」で、九州をはじめ関西や関東市場へ出荷しています。阿蘇地域は冷涼な気候と昼夜の寒暖差を生かした西日本有数の夏秋トマト産地として知られ、糖度と食味に優れた高品質なトマトを安定供給しています。



トマト選別の様子（7月13日撮影）

令和8年産は春先から生育がおおむね順調に推移し、低段果房では着果が良好で果実の肥大も進みました。

梅雨期には長雨の影響で一部落花が見られたものの、梅雨明け後は日照の回復とともに樹勢も持ち直し、現在開花している果房は充実していることから、今後の収量・品質ともに期待が高まっています。近年は猛暑による高温障害や病害虫の発生が課題となる中、同部会では計画的なローテーション防除を実施。薬剤の系統を変えながら適期防除を徹底し、病害虫の発生抑制と薬剤抵抗性の防止に取り組み、高品質生産の維持に努めています。

本年度は新たに5人の新規就農者が部会へ加入。部会では栽培講習会や現地巡回を重ね、ベテラン生産者や関係

機関と連携しながら栽培技術の習得を支援するなど、担い手育成にも力を注いでいます。産地の将来を担う若手生産者の加入は、阿蘇産トマトブランドの維持・発展につながるものとして期待されています。指導担当の田部滉大職員は「天候の変化に対応しながら適正な栽培管理を徹底し、市場や消費者の期待に応える品質の高いトマトを安定供給したい」と語っています。

J A阿蘇は生産者と一体となり、安全・安心で高品質な夏秋トマトの安定出荷を進め、阿蘇ブランドのさらなる評価向上と販売拡大を目指します。

品質管理徹底と安定出荷目指す
南部トマト部会出荷査定会



J A阿蘇南部トマト部会は6月5日、生産者や市場関係者らが出席し令和8年度出荷査定会を阿蘇南中央支所で開きました。査定会では、本格的な出荷を前に選果場への持ち込み要領や

※次ページに続く

生産各部会の生育・出荷・査定会などの情報③

※前ページより続く

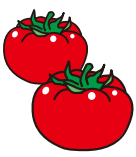
出荷規格 今後の販売方針などを確認し、今シーズンの高品質生産と有利販売に向けての意思統一を図りました。

査定会では、伊藤隆幸部会長が挨拶で「高齢化による離農や、終息の目処が立たない世界情勢の悪化による燃料の高騰、ナフサ不足による出荷資材の高騰など生産者の経費負担の割合が年々増えている。このような中でも品質管理を徹底し、安定出荷を目指したい」と述べました。

8年産は作付面積10ha（前年比83%）、栽培戸数42戸（同83%）。6月から11月まで出荷し、出荷数量900t、販売高4億500万円を計画しています。

4月の定植時期に朝晩の冷え込みで生育の遅れがありました。その後は順調に生育。着果も良好で例年に負けない品質に仕上がっています。7月上旬から出荷が始まり、7月中旬に出荷ピークを迎えました。

同部会では、圃場ごとに土壌分析を実施し、分析結果に基づいた施肥設計を行うことで、肥料コストの削減と品質向上を両立。環境負荷の軽減にもつなげています。（前ページ写真⇨挨拶をする伊藤隆幸部会長



小国郷大根のPRと販促を狙い「まるごと一本キャンペーン」実施



「まるごと一本キャンペーン」をPRする佐藤絵里さん

JA阿蘇小国郷大根部会は6月上旬「まるごと一本キャンペーン」を開始しました。今年は生産者が防除を徹底したことで生育は順調に推移。阿蘇地域の冷涼な気候を生かした栽培で、みずみずしく甘みのあるダイコンの出荷が続いています。

キャンペーンには毎年多くの応募が寄せられています。購入者からは「店頭で見かけると必ず買う」「毎年キャンペーンを楽しみにしている」など好評のコメントが届いており、昨年は約800通の応募がありました。

キャンペーンは対象のダイコンを購入し、袋に付いているバーコード2枚を応募ハガキに貼り、氏名・住所・電話番号・年齢を書いて送付すると、抽選の結果、小国郷の特産物「あきげしき5kg」が30人に当たるという恒例の企画です。消費者へのPRと販売促進、

そして販売しづらいM・Sサイズのダイコンに付加価値を付けることが目的です。

生産者の佐藤誠さんは「今の時期は甘味が強く煮物にしてもサラダにしても美味しく、どの料理にしても最高。資材高騰で厳しい状況だが、安全・安心なダイコンを消費者へ届けたい」と笑顔で話していました。

キャンペーンは12月末まで行われ、対象商品は主に熊本県内や福岡県内のスーパーで販売されています。

南部なす部会 本格出荷前に「ひごむらさき」目慣らし会



「ひごむらさき」目慣らし会の様子

JA阿蘇南部なす部会は7月3日、令和8年産「ひごむらさき」の目慣らし会を開き、生産者や市場関係者・J

A担当者ら約20人が出席。本格出荷を前に出荷規格や品質基準を確認し、販売強化へ意思を統一しました。

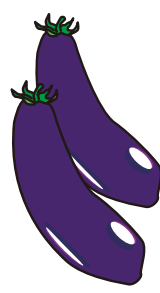
同部会では、規格の簡素化により選別作業の効率化を図り生産性向上につなげるため、今年度から規格表の等級を従来の4等級から3等級へ見直したことで、選別基準を再確認しました。

市場担当者は「ひごむらさきは見た目が美しく食味も良いことから市場評価が高い。今年も品質の良いひごむらさきを期待している」と話しています。

8年産は、4月の定植時期に朝晩の冷え込みが続く生育にやや遅れが見られたものの、その後は順調に回復し、品質は例年並みに仕上がっています。7月上旬から出荷が本格化し、7月中旬に最盛期を迎えました。

今年産の作付面積は2.2ha（前年比105%）、栽培戸数13戸。6月から11月まで出荷が続き、出荷量182t、販売高6438万円を計画しています。

部会では品質の統一と安定出荷を徹底し、市場からの信頼をさらに高め、有利販売につなげていく考えです。



JA阿蘇 イラスト違い探し「花火大会」

左右2つのイラストには、違っているところが5か所あります。

探してみてください! (出題:イラストレーター みやた みゆき)



イラスト違い探し「花火大会」応募方法

上のイラスト 5 か所の違いを、官製ハガキに書いて応募してください。

正解者の中から抽選で 4 名様に

「ひばり工房セット」(写真=中身が変更となる場合があります)をプレゼントします。

応募締め切りは令和 8 年 9 月 15 日(当日消印有効)です。

当選者は次号のJAあそだよりで発表します。



前号「梅雨」答えとプレゼント(トマトLサイズセット)当選者 5 名様



橋本様・河野様・檜林様
田代様・小嶋様

(個人情報保護等の観点から、
当選者の苗字のみを掲載しています)

= 答え =

- ① カエルの口
- ② 真ん中のでてるてる坊主の長さ
- ③ 犬の舌
- ④ 右のカタツムリの大きさ
- ⑤ お母さんの前髪



ハガキ (表)

ハガキ (裏)

●イラスト違いの答え

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤

●郵便番号

●住所(番地までご記入ください)

●電話

●氏名

●年齢

●ご意見・ご要望
(内容によっては誌面で取り上げさせていただきます)

●その他

阿蘇市一の宮町宮地387-5
JA阿蘇 総務部
「JAあそだより」係

理 事 会 ・ 監 事 会 報 告

■令和8年度第4回理事会

日時 令和8年6月18日午後1時00分

場所 一の宮中央支所会議室

- 1. 開会
- 2. 組合長挨拶
- 3. 協議事項

委員会報告(経済専門委員会)

5月末実績について

- 1) 2026年度「JA阿蘇夏のマイカーローンキャンペーン」実施に伴うキャンペーン金利の取扱いについて(案)
- 2) JA阿蘇営農法人組織育成交付要領(案)について
- 3) 支所運営委員会定数見直しについて(案)
- 4) 専門委員会定数見直しについて(案)

報告事項

- 1) 地公体貸出について
- 2) 令和8年度余裕金運用状況について(令和8年5月末)
- 3) 令和8年度第2(四半期) 余裕金運用方針について
- 4) 令和7年度決算監事監査報告書について
- 5) 外部検査の受入れについて
- 6) 総合展示会日程及び会場変更について
- 7) 自主検査結果について(令和8年4月)
- 8) JA阿蘇活動総合3カ年計画について(令和8年3月末)

4. 閉会

■令和8年度第5回理事会

日時 令和8年6月25日総代会終了後午後1時30分(予定)

場所 一の宮中央支所会議室

- 1. 開会
- 2. 挨拶
- 3. 議題
 - 1) 仮議長の選任について(案)
 - 2) 代表理事及び役付理事の選任について(案)
 - 3) 常勤理事の他の団体理事等への就任の承諾について(案)
 - 4) 理事の順位について(案)
 - 1. 2. 3.
 - 5) 役員賠償責任保険継続加入と保険料徴収について(案)

報告事項

- 1) 新任非常勤理事研修会の開催について
- 2) 理事会開催日程について

4. 閉会

■令和8年度第6回理事会

日時 令和8年7月3日午後1時30分

場所 一の宮中央支所会議室

- 1. 開会
- 2. 組合長挨拶
- 3. 協議事項
 - 1) 業務報告書について(案)
 - 2) 事業のご案内2026(ディスクロージャー誌)について
 - 3) 事業のご案内2026(ミニディスクロージャー誌)について
 - 4) 各専門委員会等の委員の互選について
 - 5) 令和8年度(各理事)役員報酬について
 - 6) 役員退職慰労金の支給について
 - 7) 職員夏季賞与支給について

報告事項

- 1) 常勤役員の他の団体理事等への就任について
- 2) 定款・規約・諸規程集、理事会等会議資料の管理および連絡事項について

4. 閉会

■令和8年度第7回理事会

日時 令和8年7月28日午後1時30分

場所 一の宮中央支所会議室

- 1. 開会
- 2. 組合長挨拶
- 3. 協議事項
- 委員会報告(総務専門委員会・金融共済専門委員会・経済専門委員会)
- 6月末実績について
 - 1) 貸出金について(案)
 - 2) 令和8年度 コンプライアンスマニュアルについて(案)
 - 3) 各委員会等の要領改正について(案)
 - (支所担当理事設置・債権管理委員会・米穀共同計算委員会設置)
 - 4) 共同乾燥施設の手数料見直しについて(案)
 - 5) 農産物検査業務規程の改正について(案)
 - 6) 建設委員会の設立について(案)
 - 7) 令和7年度 決算監事監査回答書(案)について
 - 8) 個人情報保護体制及び保護計画書について(案)

報告事項

- 1) 第25回通常総代会事前説明会開催状況等について
- 2) 各専門委員会等の選任について
- 3) JAバンク基本方針に基づく「経営管理資料」のうち農林中金が定める事項について
- 4) 県域ローンセンター媒介業務実績について(令和8年6月)
- 5) 固定資産取得委員会委員について
- 6) 令和7年度米在庫数量について
- 7) 令和8年度米麦等棚卸監査実施要領について
- 8) 内部監査実施報告について(令和8年4月～令和8年6月)
- 9) マネロン・反社等への対応状況について(四半期報告)
- 10) 自主検査結果について(令和8年5月)
- 11) 有価証券売却報告について

4. 閉会

●令和8年度第4回監事会

日時 令和8年6月25日総代会終了後

場所 一の宮中央支所会議室

- 1. 開会
- 2. 挨拶
- 3. 議題
 - 1) 役付監事の選任について
 - 2) 監事の順位について

報告事項

- ①第5回監事会について

4. 閉会

●令和8年度第5回監事会

日時 令和 8年 7月2日午後1時30分

場所 本所 2階第一会議室

- 1. 開会
- 2. 挨拶
- 3. 議題
 - 1) 令和8年度監事報酬について
 - 2) 監事の対する退職慰労金の支給について
 - 3) 令和8年度米麦等棚卸監査実施手続きについて
 - 4) JAバンク基本方針に基づく「経営管理資料」のうち農林中金が定める事項について

報告事項

- ① 定款・監事監査規程、監事会規程及び監事の行為基準について
- ② 監事会及び監事監査の年間計画について
- ③ 監事名簿について
- ④ 内部監査実施状況報告について(令和8年4月～令和8年6月)
- ⑤ 令和8年度みのり監査法人「監査契約」締結について
- ⑥ 常勤監事業務報告及び会議等報告について
- ⑦ 行事予定について

4. 閉会

JAをご利用のみなさまへ ご案内
新しいサービスが始まります

あぐりん

くまもとアグリポータル

請求書・精算通知書をスマホ・パソコンでいつでも確認できるサービスです

令和8年9月
開始

購買代金案内書兼請求書

販売精算通知書

スマートフォン・パソコンで
いつでも確認できます

外出先からでもOK!



サービスの主な特長

01 ④

いつでも帳票確認

スマホ・PCから請求書や精算通知書をWeb閲覧・PDF保存できます。

02 ③

届いた帳票をまとめて管理

登録後に届いた請求書・通知書を一覧で確認・PDFで取り出せます。

03 ①

JAのお知らせを受信

JAからのお知らせをポータルでまとめて確認できます。



このサービスはペーパーレス化の取り組みの一環です。JA阿蘇ではSDGsの達成に向けた活動を行っています。



利用登録はこちら

令和8年9月上旬発行分（8月末締め）の購買代金案内書兼請求書より、宛名面にQRコードが印字されます。スマートフォンで読み取るだけで利用登録ページへアクセスできます。請求書の裏面に利用手順を記載しておりますのでご確認ください。

ご利用登録の流れ

STEP
1



利用登録ページを開く

請求書を準備し、宛名面または上のQRコードをスマホで読み取ります。

※パソコンの方は下記URLを入力

STEP
2



メールアドレスを登録

メールアドレスを入力し、本登録用URLを受け取ります。

STEP
3



画面の案内に沿って入力

必要事項を入力して完了。JA窓口での手続きは不要です。

利用登録URL : <https://portal.kacus.jp/portalsite>

組合員の皆様へ

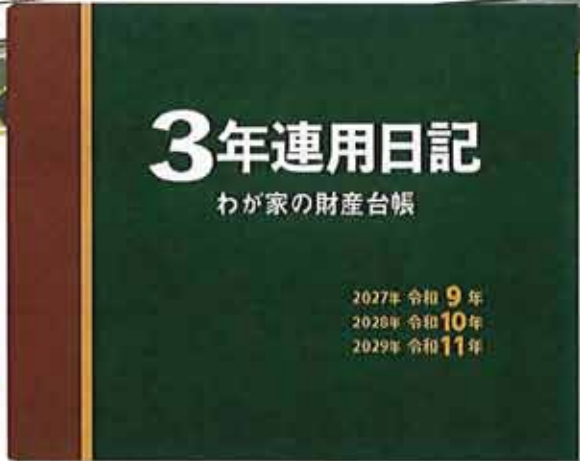
3年間の記録がひと目で見渡せる 「3年連用日記」

令和9・10・11年版

お申込み締切日
9月30日迄
商品お届け日
12月中旬頃



表紙が新しく
変わります！



1冊で**3年分**を
見開きで確認

定価 **4,400円** (税込)

B5判/日付・曜日入り/見開き4日分×3年記入式

農業日誌や
人生の記録に
最適！

お近くのJA窓口へお申込みください！

12月には品薄となりますので、お早めにお申込みください。なお、万一品切れの場合にはご容赦ください。

サンプル帳はこちらからご確認いただけます▶

※電子サンプルは令和8・9・10年版の3年連用日記を掲載しておりますが、
商品は令和9・10・11年版でのお届けになります。

※申込締切後のご注文はお受けすることができませんので、予めご了承ください。



令和9年度採用 JA阿蘇職員募集（新卒）

1. 採用職種及び採用予定者数 一般総合職・・・・・・・・・・10名程度
2. 受験資格 令和9年3月(来春)までに卒業見込みの者
3. 受験手続 提出書類
 - ア. 履歴書（JIS規格）1通（写真付）
 - イ. 写真（3×4cm）1枚（履歴書に貼付した写真と同じものとし、
 - ウ. 学校成績証明書 裏面に学校名・住所・氏名を記入）
 - エ. 卒業証明書又は卒業見込証明書

●ア～エの書類4点を令和8年9月2日(水)迄に下記担当まで提出下さい。
4. 試験日程・内容

【日 時】令和8年9月18日（金）13時15分～面接終了まで

【場 所】〒869-2612 熊本県阿蘇市一の宮町宮地543
阿蘇農業協同組合 一の宮中央支所

【内容①】（※事前webテスト）基礎能力・適性検査

【内容②】面接試験
5. 待遇

令和9年4月1日 採用（3ヶ月の試用期間あり）

賞与／年2回支給 昇給／年1回 ※前年度実績

給与／短大・専門卒・・・182,260円～ 大学卒・・・・・・・・ 200,830円～
各種手当支給有(組合諸規定による)

阿蘇農業協同組合（JA阿蘇）総務部 総務人事課

住所：〒869-2612 熊本県阿蘇市一の宮町宮地 387-5

電話：0967-22-6111 FAX：0967-23-1088

E-mail：jaaso@jaaso.or.jp

採用担当：工藤・上田



左記のQRコードを読み取るかJA阿蘇ホームページ
<https://www.jaaso.or.jp/>にも掲載しています。
皆様のご応募を職員一同、心からお待ちしております。
何でもお気軽にお問い合わせ下さい。